

地域主体の持続的まちづくり活動の動向と特性 その6

日大生産工(院) ○鶴巻 愛瑠 同 池田 直輝

大和ハウス工業 井出 綾香 福岡大学 野田 りさ 日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

本研究は前稿「地域主体の持続的まちづくり活動の動向と特性 その5」に引き続く研究である。既報では自治体による、活動組織に対しての支援に視座を置き、自治体と活動組織の異なる側面から比較し、組織の連携や協働、地域の様々な活動との関係から、今後の活動支援の展望を報告した。本研究では地域居住者の現状を把握し、定住意識や地域交流、地域居住者の視点からの暮らしやすさについて分析し、自治体・活動組織・地域居住者の異なる側面から比較し、地域主体の持続的まちづくり活動の実態と傾向的特徴について整理する。

2. 調査概要

調査対象は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県、長野県の1都7県で、「地域主体の持続的まちづくり活動の動向と特性 その5」で回答を得られたNP0活動組織がある各市区町村と「地域主体の持続的まちづくり活動の動向と特性 その3」で回答を得られた各市区町村の地域居住者である。調査対象の概要を表1に示す。

調査方法は、調査対象の自治体にメールにて依頼し、ポスターを郵送した。その後、各地域居住者からGoogleフォームにて回答を得る方法でアンケート調査を実施した。調査期間は2022年7～9月である。

調査項目は、(1)住人について、(2)定住意識、(3)地域交流について、(4)町内会・自治会について、(5)まちづくり活動について、(6)福祉活動について(7)まちづくり活動への関心について調査した。詳細を表2に示す。

表1 調査対象

	対象市区町村	回答数		対象市区町村	回答数
東京	22	37	埼玉	4	2
埼玉	7	26	群馬	5	2
千葉	8	40	茨城	11	37
神奈川	4	6	長野	5	11
			合計	66	161

表2 アンケート調査概要

アンケート調査項目	
NO.1	住人について
	性別/年齢/家族構成/移動手段/職業/
	通勤通学手段/通勤通学時間/通勤通学先
NO.2	定住意識
	居住地/居住年数/満足度/居住きっかけ/
	現在の居住理由/居住形態/現状の評価/
	定住の予定/街の改善点/街への要望/理想像
NO.3	地域交流について
	活発度/活発度への要望/満足度/参加状況/
	交流人数/交流頻度/関心度/改善点/要望
NO.4	町内会・自治会について
	参加状況/参加意欲/参加歴/参加人数/
	情報源/情報源への要望/活動内容への要望
NO.5	まちづくり活動について
	関心度/認知度/参加状況/参加理由/参加意欲/
	参加頻度/所要時間/活動場所/参加人数/
	成果/意識の変化/今後の参加意欲/要望
	各活動の認知度
NO.6	福祉活動について
	関心度/認知度/参加状況/参加理由/参加意欲/
	参加人数/移動手段/所要時間
NO.7	まちづくりへの関心について
	参加意欲のある地域/まちづくりへの要望/
	地域交流への要望/福祉活動への要望

3. 定住意識について

地域居住者の定住意識とその理由について整理する。はじめに定住意向を図1に示す。

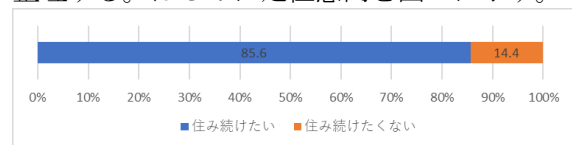


図1 定住意向 (n=160)

85.6%の居住者から、今後も住み続けたいという回答が得られた。

次に、図1で今後も住み続けたいと回答した理由を図2に、住み続けたくないと回答した理由を図3に示し比較する。

今後も住み続けたいと回答した理由を A 利便性・B 交通環境・C 自然環境・D 人間関係・E 治安・F 愛着・G 子育て環境・H 持ち家があるから・I 暮らしやすい・J 引っ越す理由がない(消極的)・K 引っ越しができないの 10 項目に、住み続けたくないと回答した理由を A 利便性・B 交通環境・C 自然環境・D 人間関係・E 治安・F 愛着・G 子育て環境・H 他の地域に興味がある・I その他の 8 項目に分類し比較する。

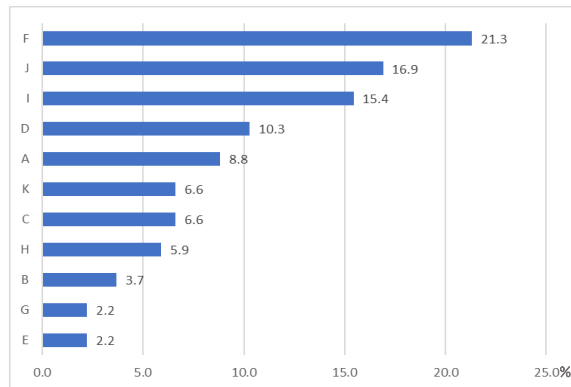


図2 今後も住み続けたい理由 (n=122)

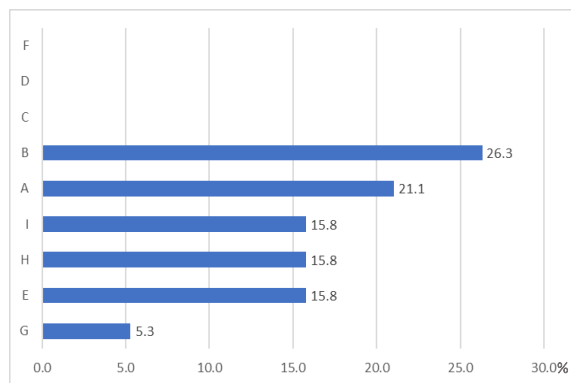


図3 住み続けたくない理由 (n=19)

住み続けたい理由としては愛着が 21.3%と最も多い結果になった。また、子育て環境・治安を理由としている人は 2.2%と少ないことが見て取れる。

住み続けたくない理由としては交通環境が最も多く、次に利便性が多いという結果になった。中でも、現在はなんとか生活できているが、現状の交通環境や利便性では、免許返納後や老後の生活に不安を感じているため住み続けたくないという回答が多く得られた。

しかし、住み続けたい理由では、利便性が 8.8%、交通環境が 3.7%と大きく違いがあり、周辺の利便性に満足できていれば、交通環境を問題点と感じにくいという傾向がみられた。また、「暮らしやすい」という回答も多くみられた。

4. 移動手段について

普段の移動手段と地域交流の関係について整理する。はじめに普段の移動手段を図7に示す。

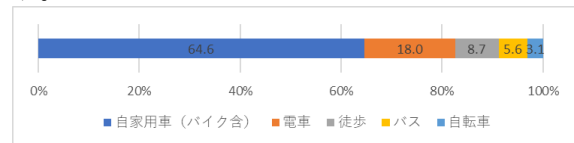


図4 移動手段 (n=162)

移動手段は自家用車が最も多く 64.6%という結果となった。

次に、移動手段別の平均居住年数を図8、移動手段別の平均交流人数を図9に示し、比較する。

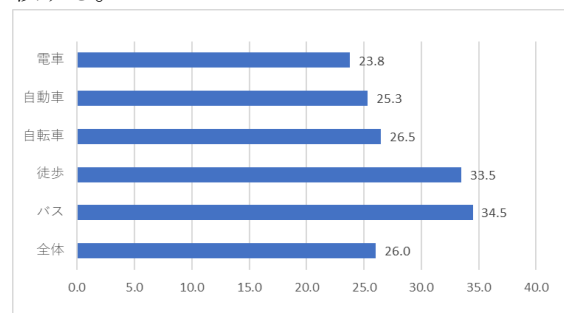


図5 移動手段別の平均居住年数 (n=162)

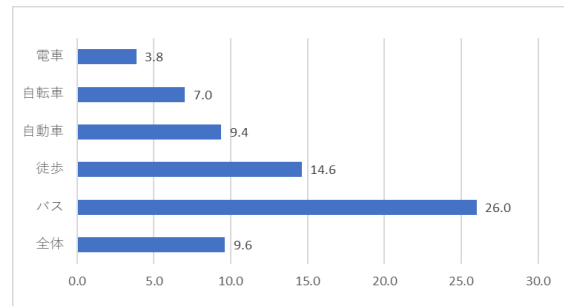


図6 移動手段別の平均交流人数 (n=139)

移動手段別の平均居住年数では、バス・徒歩を移動手段としている方が他の移動手段よりも居住年数がやや長い傾向がみられた。

移動手段別の平均交流人数では、バスを移動手段としている方が一人当たり 26 人と最も多く、徒歩を利用している方が一人当たり 14.63 人と次に多い結果となった。

これらのことから、バス・徒歩圏内で生活していると居住年数が長くなり、交流人数も多くなる傾向があるといえる。

5. 暮らしやすさについて

図2では、暮らしやすいという回答も多くみられた。現在居住している街の暮らしやすさの評価とその要因について整理する。はじめに、現在の街の暮らしやすさの評価を図4に示す。

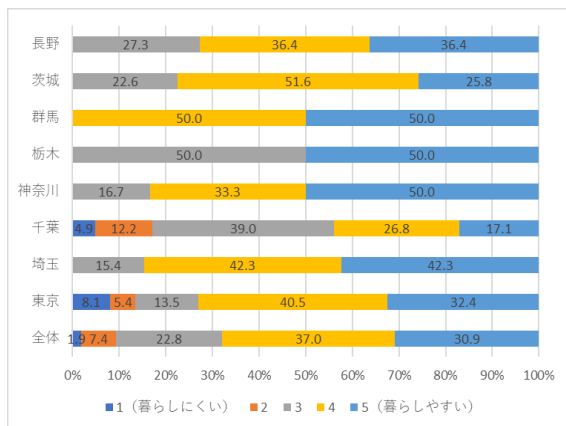


図7 暮らしやすさの評価 (n=162)

半数以上から4もしくは5（5が最も暮らしやすい）という回答が得られた。

次に、暮らしやすさの評価（5段階評価）別で、地域居住者の回答から得られた評価点を図5、課題点を図6に示し「暮らしやすさ」について整理する。評価点・課題点共にA(利便性)・B(交通環境)・C(自然環境)・D(人間関係)・E(治安)・F(愛着)・G(子育て環境)・H(その他)の8項目に分類した。

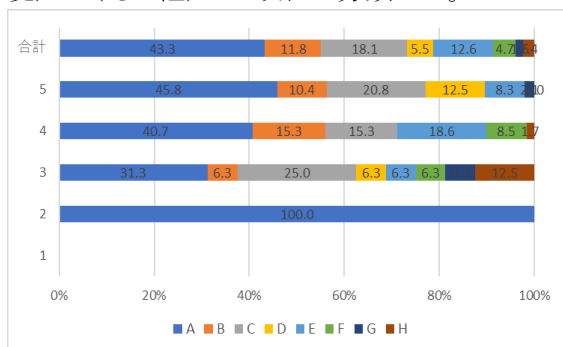


図8 満足度別の街の評価点（複数回答）

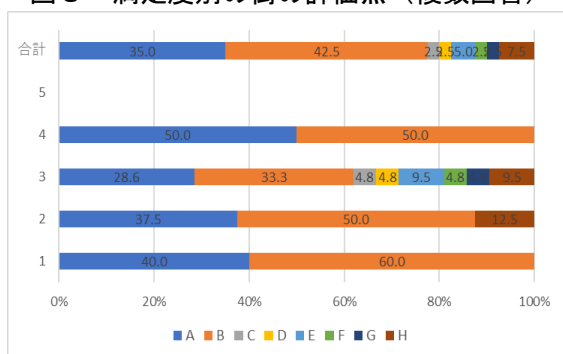


図9 満足度別の街の課題点（複数回答）

評価点・課題点共に、利便性が最も多いということが見て取れる。また、1・2の回答理由は、ほぼ利便性と交通環境であるが、暮らしやすさの評価が高くなると自然環境や治安等、利便性以外の要素の理由の割合も大きくなるという傾向がみられた。また、人間関

係や愛着等のソフト面も「暮らしやすさ」の要素に含まれているとわかる。

6. まちの満足度について

現状の街について地域居住者がどのように評価しているかを整理する。項目別での現状の街の評価を図10に示す。

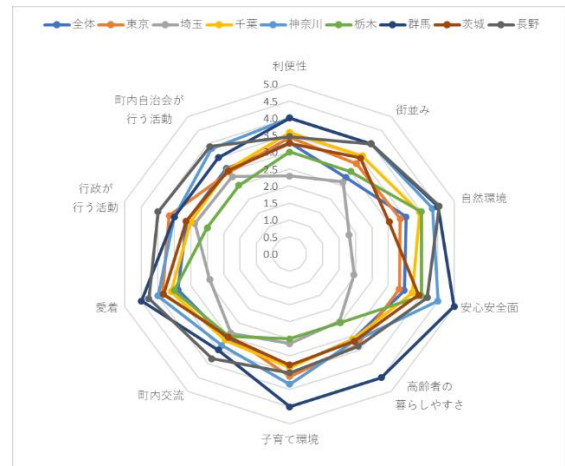


図10 街の評価

東京都は町内会・自治会が行うまちづくりへの評価と町内交流の評価が低い結果となった。

埼玉県は全体的に満足度が低い結果となった。中でも、安心安全面が1.96、自然環境が1.81とかなり低い評価である。

千葉県は全体的に3を超えるが4以上の評価の項目はなく、まちづくり活動の評価が低い結果になった。

神奈川県は利便性と街並みの評価が4.0と他県に比べて評価が高い結果になった。

栃木県は安心安全面と自然環境の評価は高いが、そのほかの項目では低い結果となった。

群馬県は全体的に評価が高いが、町内交流・まちづくり活動の評価が低い結果になった。

茨城県は千葉県と同様に全体的に3を超えるが4以上の評価の項目はなく、町内交流・まちづくり活動の評価が低い結果になった。

長野県は、全体的に評価が高いが、高齢者の暮らしやすさや利便性の評価が低い結果となった。しかし、他都県で評価の低さが目立ったまちづくり活動の評価は最も高い結果となった。

項目別での現状の街の改善点を図11に示す。

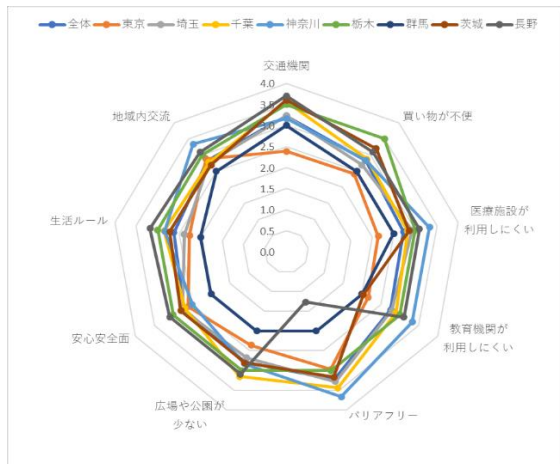


図 11 街の改善点

東京都・千葉県はバリアフリーが少ないという項目が大きい結果となった。

神奈川県は地域内の交流が少ないという項目が大きい結果となった。

埼玉県・千葉県・群馬県・茨城県・栃木県・長野県は交通機関が利用しにくいという項目が最も大きい結果となった。

東京都・栃木県は他都県に比べて全体的に改善点が少なく、群馬県・長野県は他都県に比べてバリアフリーが少ないという意見が少ない結果となった。

7. まちづくり活動について

図10ではまちづくり活動に対する評価が全体的に低いという結果となった。そこで、町内会・自治会の活動に対する地域居住者の要望を図12に示し整理する。

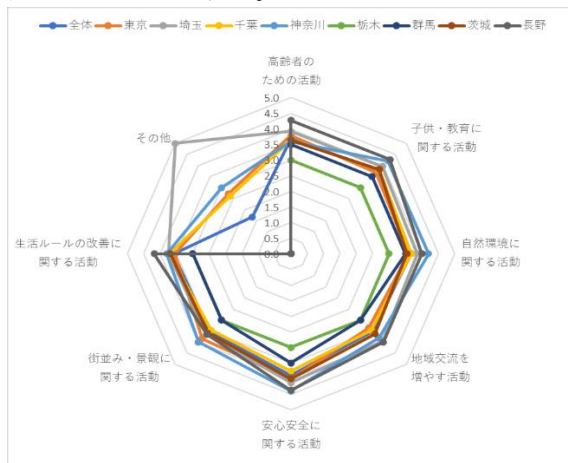


図 12 町内会・自治会の活動への要望

どの活動にもほぼ同じ程度の需要があることが見て取れる。そのなかでもより要望が大きかったのは、図8では少なかった安心安全に関する活動と子ども・教育に関する活動という結果になった。

8. まとめ

本研究で得られた地域居住者の傾向的特性を以下に整理する。

(1) 定住意識について

現在住んでいる街に住み続けたいと考えている地域居住者が多く、そのなかでの満足度の向上が今後の課題としてあげられる。また、愛着は住み続けたい理由最も寄与する。街に対しての満足度が高くなる要因として居住地が充実していることがあげられるが、交通環境の影響は少ない。住み続けたくない理由で最も多くあがるのは交通環境だが、居住地を充実させることで補う必要がある。居住地の充実にはハード面だけでなく地域交流や愛着等のソフト面も重要である。

(2) 移動手段と地域交流の関係

普段の移動手段として、バス・徒歩を利用している居住者の方が一人当たりの交流人数が多くなり、平均居住年数が長くなる。バス・徒歩で暮らせるまちづくりが地域交流を活発にすることに繋がるといえる。

(3) まちづくり活動について

町内会・自治会が行う活動に対しての地域居住者の要望は安心安全に関する活動と子ども・教育に関する活動であるが、これらは街の評価点や街に住み続けたい理由ではあまりあがらなかった。

地域居住者は現在暮らしている街に足りないと感じるものを町内会・自治会が行う活動で補うことで住み続けたい街の満足度を向上させる必要がある。また、自治体や活動組織はこれらの要望をサポートしていく必要がある。

参考文献

- 1) 井出綾香,野田りさ,北野幸樹:地域主体のまちづくり活動の動向と特性,第51回日本大学生産工学部学術講演会,pp.531~534,2018.12
- 2) 井出綾香,野田りさ,北野幸樹:地域主体のまちづくり活動の動向と特性その2,第52回日本大学生産工学部学術講演会,pp.427~430,2019.12
- 3) 江田貴史,北野幸樹:地域主体のまちづくり活動の動向と特性その3,第53回日本大学生産工学部学術講演会,pp.397~400,2020.12
- 4) 江田貴史,鶴巻愛瑠,井出綾香,野田りさ,北野幸樹:地域主体のまちづくり活動の動向と特性その4,第54回日本大学生産工学部学術講演会,pp.551~554,2021.12
- 5) 鶴巻愛瑠,江田貴史,井出綾香,野田りさ,北野幸樹:地域主体のまちづくり活動の動向と特性その5,第54回日本大学生産工学部学術講演会,pp.555~558,2021.12
- 6) 日本建築学会「地域継承空間・都市持続形成システム調査報告書」(2009)
- 7) 日本建築学会「私の考える日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト」(2009)
- 8) 日本建築学会「日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティアーキテクト」